

練馬区立大泉桜学園 検証報告書（案） 構成

第1章 練馬区における小中一貫教育の取組

1 ページ

- 1 練馬区立小中一貫教育校設置に関する基本方針（平成20年11月）
- 2 小中一貫教育校の選定（平成20年12月）
- 3 練馬区立小中一貫教育校実施計画（平成23年1月）
- 4 練馬区立小中一貫教育校大泉桜学園開校（平成23年4月）
- 5 小中一貫教育の研究グループ指定（平成23年4月～）
- 6 練馬区立小中一貫教育推進方策（平成24年2月）
- 7 ねりま小中一貫教育フォーラム開催（平成24年11月）
- 8 大泉桜学園研究発表会（平成25年2月）
- 9 文部科学省調査研究の受託（平成25年9月）
- 10 ねりま小中一貫教育フォーラム開催（平成27年1月）

大泉桜学園開校前、開校後の区分けを削除

第2章 大泉桜学園の概要

6 ページ

1 現況と推移

- (1) 設置
- (2) 施設
- (3) 児童生徒数

第1章と重なるため、「2 あゆみ」を削除

2 教育活動

- (1) 教育目標と三つの指針
- (2) 学校経営体制
- (3) 学校生活
 - ①生活時程
 - ②標準服
 - ③校歌、校章
- (4) 主な学校行事
 - ①入学式（4月）
 - ②たてわり遠足（4月）
 - ③朝礼・朝会（4月～）

(3)教育の重点を削除し、
(4)主な学校行事
(5)特色ある教育活動
(6)3期の区切りに応じた活動に変更

- ④飯ごう炊さん（５月）
- ⑤運動会（５月）
- ⑥児童生徒会役員選挙（９月）
- ⑦桜祭（１０月）
- ⑧避難拠点訓練（１２月）
- ⑨学習発表会（２月）
- ⑩クラブ発表会（２月）
- ⑪虹を渡ろう式・４年生に感謝する会（３月）
- ⑫卒業式（３月）

（５）特色ある教育活動

- ①５・６年生の一部教科担任制
- ②５・６年生からの定期テスト
- ③言語能力を高める教育活動
- ④英語によるコミュニケーション活動
- ⑤少人数指導と個別補充学習（フォロー学習）
- ⑥大泉桜の里
- ⑦キャリア教育
- ⑧ふれあい給食・交流給食
- ⑨大泉特別支援学校との交流

（６）３期の区切りに応じた活動

- ①委員会活動
- ②児童生徒会活動
- ③部活動

第３章 検証計画

12 ページ

１ 検証の必要性和準備

- （１）検証の必要性
- （２）小中一貫教育校検証部会

２ 基本方針

３ 検証項目と活用資料

- （１）検証項目
- （２）活用資料
- （３）検証資料の取り扱い

- (4) 意識調査
- (5) 聞き取り調査

第4章 検証結果

17 ページ

1 9年間を見通したカリキュラムを作成・実施することにより、発達段階に応じた計画的・継続的な学習指導及び生活指導の充実を図ることができる

- (1) 9年間を見通した学習指導
- (2) 4-3-2の区切りの考え方
- (3) 5・6年生の一部教科担任制
- (4) 5・6年生の50分授業
- (5) 発達段階に応じた継続的な生活指導

- 学力調査結果を4に移動
- 4-3-2の区切りの考え方を2から移動
- 生活指導の記述を追加

2 小学校から中学校へ進学する際の段差を緩やかなものにし、円滑な移行が図られる。その結果、不登校生徒を減少させることもできる

25 ページ

- (1) 学校生活への満足度
- (2) 小中教員の協力体制
- (3) 養護教諭の協力体制
- (4) 不登校生徒について

- 4-3-2の区切りの考え方を1へ移動

3 幅広い異年齢集団による活動を通じて、豊かな人間性や社会性が育成できる

33 ページ

- (1) 合同学校行事 ～運動会・桜祭・入学式・卒業式～
- (2) 異学年交流・たてわり活動
- (3) 5・6年生からの部活動
- (4) 5～9年生による児童生徒会活動

- 児童生徒会活動を追加

4 小学校の教員と中学校の教員の相互協力関係が今まで以上に構築でき、学力や体力の向上等の高い教育効果を上げることができる

44 ページ

- (1) 学校組織と校務分掌
- (2) 小中合同の校内研究
 - ※ 学力調査の結果について
 - ※ 体力向上への取組について

- 学力調査結果を1から移動
- 体力テスト結果を追加
- (3)給食調理の体制と(4)事務職員の協力体制を7へ移動

5 地域社会と連携した特色ある学校づくりを推進し、魅力ある学校とすることによって 保護者や地域社会からの信頼を得られる。その結果、学校と地域社会の活性化につながる 50 ページ

- (1) P T A組織における小中連携
- (2) 小中一貫教育校と地域との連携

6 施設整備における効果と課題 55 ページ

- (1) 職員室が小中合同であること
- (2) 校舎のゾーニング（東校舎・西校舎）
- (3) 異学年交流スペース（ランチルーム）
- (4) 体育施設（体育館、プール、校庭）
- (5) 特別教室
- (6) 他自治体の小中一貫教育校との比較

7 小中一貫教育の仕組みに関する諸課題 62 ページ

- (1) 通学区域制度の特例
- (2) 学校選択制度と小中一貫教育校
- (3) 給食調理の体制
- (4) 事務職員の協力体制
- (5) 情報発信

- ・タイトルを変更
- ・(3)給食調理の体制と(4)事務職員の協力体制を4から移動

8 検証のまとめ 71 ページ

第5章 今後の課題 74 ページ

- 1 施設が離れている小中学校に活かせること
- 2 2校目の施設一体型小中一貫教育校に活かせること
- 3 大泉桜学園の目指すもの

<資料>

- 1 大泉桜学園施設配置図
- 2 学校評価
- 3 検証アンケート結果
- 4 聞き取り調査結果（総括）
- 5 検証部会名簿